

# 進化経済学会ニューズレター

No.51 January 2022



(撮影：横田宏樹 静岡市葵区水見色「高山・市民の森」展望台からの景色)

進化経済学会事務局

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町 17-8

摂南大学経済学部

原田裕治研究室宛

\*\*\*\*\*

- ✓ 2021 年度オータムコンファレンスを終えて
- ✓ 第 26 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録
- ✓ 進化経済学会理事会運営細則
- ✓ 進化経済学会委員会体制の整備について
- ✓ 第 26 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録（メール審議）
- ✓ 進化経済学会賞・奨励賞選考報告
- ✓ 進化経済学会内通貨「JAFEE」規約
- ✓ 会員異動
- ✓ 第 26 回進化経済学会オータムコンファレンス（同志社大学）会計報告
- ✓ 進化経済学会内通貨「JAFEE」の利用と学会コミケ出品に関するお願い
- ✓ *Metroeconomica* の誌上シンポジウムの紹介

\*\*\*\*\*

## 2021 年度オータムコンファレンスを終えて

### 第 27 回京都大会実行委員

服部茂幸・田淵太一（同志社大学）

9 月 11 日に「混迷の世界と経済学－米中対決」というテーマで、オータムコンファレンスを Zoom によるオンラインで開催しました。出席者は 37 人でした（大会実行委員会調べ）。

偶然ですが、当日は 2001 年の 9.11 テロから 20 周年にあたります。テロは同じ混迷の世界でも政治の話ですが、経済でも混迷の世界が続いています。直接のきっかけは 2008 年の世界金融危機です。世界金融危機は 1930 年代の世界大恐慌以来の金融と経済の危機でした。そして、その後、1930 年代と似たような分裂と対立の世界が訪れています。

オータムコンファレンスでは、「混迷の世界」の中でも特に「米中対決」を取り上げました。現在、先進国は総じて低成長に甘んじているのに対して、一部（全部ではありません）の新興国、特に中国は比較的高い成長を続けています。しかし、その中国の台頭自体が米中対決を引き起こすことになりました。

第 1 報告は、猪俣哲史氏（日本貿易振興機構アジア経済研究所海外研究員）の「米中デカップリングの行方：グローバル・バリューチェーンの視点から」です。猪俣氏は、これまでのグローバル・バリューチェーンは、実際にはグローバルではなく、東アジア、ヨーロッパ、北アメリカの三地域において、リージョナルなものになっているという指摘を初めに行いました。その上で、米中対決の下で、今後は、地理的に近接したものから、制度的に近似したものの統合になるだろうという見通しを述べました。そして、安全保障の分野に限った米中の部分的なデカップリングも、現状を考えると必要悪として認められるべきだと述べました。

第 2 報告は、巖成男氏（立教大学経済学部）の「米中覇権争いにおける中国の「持久戦」戦略：地政経済学（Geopolitical Economy）の視点」です。巖氏は、米中対決は 21 世紀を規定する今始まった対決であり、これから激化すると見えています。今のところは、アメリカが一方的に攻撃をしているように見えるが、中国に実質的なダメージを与えていないと考えています。そして、長期的には中国が有利に進むと述べました。

その後、司会の服部茂幸（同志社大学）ならびに参加者を交えて、討論を行いました。討論は多岐に渡るので、一部を紹介します。

最初に、司会の服部が質問しました。グローバル・バリューチェーンとしてよく取り上げられるのが、iPhone の例では、中国は iPhone を組立していても、中国の利益はごく一部で、大部分の利益は研究・開発をしているアップルに渡っていると言われていています。しかし、今では中国にはファーウェイのようにアップルに対抗するような企業がでてきています。それでは、ファーウェイの利益分配はどうなっているのか、スマイル・カーブはどうなって

いるのかというものでした。それに対して、嚴氏は、ファーウェイも基本的にはアップルと同じように、研究開発によって利益を得ていると答えました。

また猪俣氏は、ファーウェイへの半導体供給ルートを遮断する措置によって、アメリカ政府が同社の生産活動に大きな影響を及ぼしたことを指摘しました。それに対して、嚴氏は、軍事や最先端の電子製品に関するようなものはともかく、民生部品に対しては、それほど規制されていない。またファーウェイ以外の中国企業には制裁が科せられていないため、中国国内ではファーウェイが落ち込んだ分だけ、他の中国企業が伸びていると指摘しました。現在の政治・経済の混迷は米中対決に限りません。また経済学は経済の危機を救うことが期待されていますが、実際には危機を拡大させてもいます。そもそも、FRBの金融政策を支えた主流派の経済学によれば、少なくともFRBが金融政策を間違えない限り、2008年のような金融危機と経済崩壊はあり得ないことでした。金融危機後、イギリスのエリザベス女王が、金融危機を誰も予想できなかったのかと尋ねたのは有名な話です。もっとも、皆無というのは間違いで、例えば、アメリカのポスト・ケインズ派の経済学者たちは危機を予測しただけでなく、危機後のアメリカの回復が遅れることも予測していました。

黒田日銀の異次元緩和も、2年でデフレを解決するはずでしたが、8年経っても解決の目途が立ちません。本大会では広く混迷の時代を論じるとともに、これからの経済学を考えていきたいと思えます。

第26回進化経回進化経済学会京都大会は、2021年3月26-27日に行います。残念ながら、新型コロナウイルスの蔓延のため、本大会もZoomで開催の予定です。全く寂しい限りですが、多くの学会員の報告および参加を京都大会実行委員一同お待ち申し上げます。

## 第 26 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録

日時：2021 年 9 月 11 日（土）10:30~12:35

場所：ZOOM によるオンライン開催

出席者：磯谷明德（会長）、吉田雅明（副会長）、服部茂幸（大会実行委員長）、  
浅田統一郎、荒川章義、有賀裕二、池田毅、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、  
岡敏弘、小川一仁、黒瀬一弘、巖成男、佐々木啓明、瀬尾崇、遠山弘徳、徳  
丸宣穂、中原隆幸、鍋島直樹、西洋（会計）、西部忠、八木紀一郎、原田裕治  
（事務局）

欠席（委任状あり）：依田高典、澤邊紀生、瀧澤弘和、橋本敬、廣瀬弘毅、藤田  
菜々子

欠席：塩沢由典、藤本隆宏

オブザーバー：宮崎義久、吉井哲

### 1. 報告

#### 1. 1 会勢報告

資料 1

原田事務局担当理事より会勢報告が行われた。また宛先不明者の所在調査につ  
いての協力依頼が行われた。

#### 1. 2 第 26 回オータムコンファレンス参加状況について

服部大会実行委員長より、第 25 回オータムコンファレンス参加状況について、  
報告があった。

#### 1. 3 日本経済学会連合報告

池田担当理事より、2021 年度第 1 回評議会報告があった。また 70 周年記念事  
業企画の紹介があった。事務局から 70 周年記念事業企画に関心のある方は連絡  
をいただきたい旨の依頼があった。

#### 1. 4 各部会報告

ニューズレター掲載に付き省略。

#### 1. 5 次年度開催校について

原田事務局担当理事より次年度開催校が立教大学になる旨報告があり、荒川理  
事・池田理事から挨拶があった。オータムコンファレンスは 2022 年 9 月 17 日  
に開催予定との案内があった。

## 2. 議題

### 2. 1 入退会について

原田事務局担当理事より入会希望者の紹介が行われ、これを了承した。また退会者のリストを確認し、これを了承した。

### 2. 2 2020年度会計決算報告について

西会計担当理事より2020年度の会計決算報告が行われたが、監査が終了していないため監査を終えた後にメール審議または2022年春の理事会での審議を行うことが提案され、これを了承した。

### 2. 3 学会賞の選定について

選考委員会からの報告書が間に合わなかったため、報告書が届き次第メール審議とすることが提案され、これを了承した。

### 2. 4 奨励賞の選定について

選考委員会からの報告書が間に合わなかったため、報告書が届き次第メール審議とすることが提案され、これを了承した。

### 2. 5 フェロー推薦について

磯谷会長・八木理事からの推薦にもとづき、有賀理事、宇仁理事、吉田副会長からなるフェロー選考委員会より吉田和男会員をフェローに推挙する旨報告があり、審議の結果これを了承した。

### 2. 6 委員会体制の整備について

瀬尾学会活性化準備委員より、学会活性化に関する提言が行われた。それを受けて吉田副会長より、学会活性化委員会、JAFEE 通貨運営委員会、大会プログラム委員会、Web・広報委員会の設置と委員について提案があり、これを了承した。また新設委員会の委員長より挨拶があった。

2022年度の大会開催に向けて、学会活性化委員会の議論や大会プログラム委員会の活動開始時期を早めるべきではないかとの指摘があった。これに対して瀬尾学会活性化委員長より議論を早める旨の回答があり、大会プログラム委員会とも前倒しで連携して議論を進めることを確認した。

### 2. 6 会則・理事会運営細則改正について

磯谷会長より会則および理事会運営細則の改正について提案があり、これを了承した。

### 2. 7 過去の大会予稿集の電子化および公開について

磯谷会長より過去の大会予稿集の電子化および公開について提案があった。こ

れに対して、公開される大会報告論文が他誌に掲載された場合二重投稿と理解されることが懸念されるため、提案の公開がどういう性格のものなのかを明記する必要があるとの指摘があった。これを受けて事務局から、公開の性質を整理して改めて提案する旨の回答があった。

## 2. 8 進化経済学会内通貨規約改正の方針について

吉田副会長より、進化経済学会内通貨規約改正の方針について提案があり、これを了承した。規約改正にあたっては以下のことを考慮に入れるよう要望があった。1) 規約に記された学会からの拠出は義務ではない、2) EIER への年間投稿数は 50 本未満で、JAFEE の付与を論文ごと（複数回査読の場合も 1 本分とみなす）に行うとすれば、付与額が過大になることはないのではないか。

## 2. 9 会員管理システムの更新について

原田事務局担当理事より、オンライン会員管理システムの導入と会費徴収業務委託先の変更が提案され、これを了承した。会費納入については PayPal やオンラインバンキングなどキャッシュレスで行う手段を提供できないかとの要望があり、事務局でこれを検討することとした。

## 3. その他

なし

### (お詫びと訂正)

ニューズレターNo.50 の 10 ページ「第 8 回進化経済学会役員選挙の結果について」で誤りがありました。

(誤) 八木 紀一郎(撰南大学)

(正) 八木 紀一郎

お詫びして訂正いたします。

文責：事務局担当理事 原田裕治

## 進化経済学会理事会運営細則

### 【開催】

1. 理事会は会長が召集し、会長ないし会長の委嘱した理事会構成員(副会長を含む)が議事の進行にあたる。
2. 会長(ないし会長の指示にもとづき学会事務局)は、原則として1ヶ月前に、理事(および必要な場合は監査委員)に、議題を示して理事会の開催を通知する。
3. 定例の理事会は、半年程度の間隔をおいて年2回おこなう。そのうち1回は、年次会員総会の時期とする。
4. 理事会は参加者過半数で成立し、議事は多数決による。ただし、議長宛ての文書による委任状提出者は参加者に含めるが、議決には含めない。出席者・欠席者、および委任状の委任者・被委任者は、理事会の報告書に記載する。
5. 個人会員総数10分の1以上の請求によって理事会を開催する場合には、その請求の代表者を理事会に出席させることができる。

### 【役員および委員の交替】

6. 理事会は、各種担当理事および各種委員会委員長理事を互選し、監査委員を委嘱するほか、必要に応じて各種委員を会員中から選任することができる。
7. 前条の各種担当理事および各種委員会委員長理事、および各種委員は、理事会の決定で適宜交替(任免)させることができる。監査委員と選挙管理委員については、理事会は解職する権限をもたないが、当該委員の希望にしたがって辞職を認め、他の会員に交替させることはできる。

### 【経費の支出】

8. 理事会の出席に旅費が必要な場合には、その一部を学会会計から補助することができる。
9. 会長・副会長、各種担当理事および各種委員会委員長理事、事務局員、各種委員の会務遂行に必要な通信費等については、学会財政から支出することができる。

### 【部会】

10. 理事会は、各種部会(地方部会・専門部会)を承認し、それらに財政補助を与えることを決定できる。(一部会年あたり、参加会員数×2千円程度とする。ただし年間の上限を5万円とする。)
11. 各種部会は年1回、活動報告(財政補助の使途報告を含む)を理事会に対して文書でおこなう。

### 【入退会など】

12. 入会希望者は理事会で資格審査する。事務局は審査のために必要な情報(所属、推薦者、その他)を理事会に提供する。
13. 退会者リスト(逝去会員を含む)を理事会で承認する。会員の除名が議題になる場合

には、慎重にその調査をおこなう。

14. 正会員以外に個人準会員のリストを設け、学会活動の案内などをおこなう。必要な場合には実費(印刷物など)・参加費(会合など)を徴収することがある。会費滞納者もこのリストに入る。

**【決算と予算】**

15. 大会終了後、その次に開かれる定例理事会で、会計担当理事は旧年度の決算報告をおこなう。部会や各種委員会が分離した会計になっている場合も、会計担当理事はそれを整理して、全体の会計とともに監査委員の監査を受ける。決算の承認は、年次会員総会でおこなう。
16. 会計担当理事は、予算案を適当な時期の理事会に示し、審議を経た上で、年次会員総会に提出する。

**【その他】**

17. 理事会は会則改正の場合には、その改正案を審議し、会員総会に提出する。  
その他、各種細則については理事会で適宜作成・決定してよいが、会員総会にその報告をおこなう。

(2021年9月11日改正)

## 進化経済学会委員会体制の整備について

進化経済学会会長  
磯谷明徳

学会活性化準備委員会（タスクフォース）の提言を受けて、以下の委員会を新たに設置することを提案したい。

- 1) 学会活性化委員会
- 2) JAFEE 通貨運営委員会
- 3) 大会プログラム委員会
- 4) Web・広報委員会

各委員会の目的・活動内容，メンバー，任期についてもそれぞれ以下のように提案する。

### 1) 学会活性化委員会

#### （目的・活動内容）

学会活性化準備委員会（タスクフォース）を継承し、学会活性化のための各種企画提案を行う。とりわけ年次大会およびオータムコンファレンス（AC）の形態ならびに運営について集中的に審議し、2022年度の大会・ACでの実施に向けた改革案を2022年3月の理事会および総会に提案する。

その後は若手会員（学生会員および若手・中堅の一般会員）の増加・育成のための政策を企画・運営する。

#### （メンバー）

学会活性化準備委員会メンバー

- 瀬尾 崇 理事（委員長）  
稲水 伸行 会員  
橋本 敬 理事  
藤本 隆宏 理事  
吉井 哲 会員

に加えて、若手メンバーをリクルート中

#### （任期）

理事改選まで・再任可

### 2) JAFEE 通貨運営委員会

#### （目的・活動内容）

2021年3月に承認された学会内通貨 JAFEE を活用し学会活性化に資する諸政策の企画・運営を行う

(メンバー)

宮崎 義久 会員 (委員長)

栗田 健一 会員

小林 重人 会員

吉田 昌幸 会員

(任期)

理事改選まで・再任可

3) 大会プログラム委員会

(目的・活動内容)

学会活動の持続的発展に資するべく、年次大会およびオータムコンファレンスのテーマ設定、大会プログラムの策定等を行う

(メンバー)

荒川 章義 理事 (委員長)

依田 高典 理事

小川 一仁 理事

巖 成男 理事

遠山 弘徳 理事

橋本 敬 理事

(任期)

4年：2年ごとに半数改選

4) Web・広報委員会

(目的・活動内容)

Webおよびメーリングリスト等の媒体を利用して、会員間の相互交流を促すと同時に、学会外への情報発信を積極的に行う

(メンバー)

吉井 哲 会員 (委員長)

三上 真寛 会員

江頭 進 理事 (アドバイザー)

(任期)

理事改選まで・再任可

進化経済学会 委員会・担当一覧

委員会・担当	委員	所属	役職	任期	備考
EIER編集委員会	植村 博恭	横浜国立大学	Editor-in-chief		
	有賀 裕二	中央大学	Coordinating Editor		
	藤本 隆宏	早稲田大学	Coordinating Editor		
	八木 紀一郎	摂南大学	Coordinating Editor		
経済学会連合担当	荒川 章義	立教大学		2024年度末	
	池田 毅	立教大学		2024年度末	
会計担当	西 洋	阪南大学		2024年度末	
	福留 和彦	大和大学	アドバイザー	2024年度末	
監査	黒瀬 一弘	東北大学		2024年度末	
	藤田 菜々子	名古屋市立大学		2024年度末	
学会賞・奨励賞選考委員会	生稲 史彦	中央大学	委員長	2021年度末	
	岡 敏弘	京都大学		2021年度末	
	鍋島 直樹	名古屋大学		2022年度末	
	西 洋	阪南大学		2022年度末	
学会活性化委員会	瀬尾 崇	金沢大学	委員長	2024年度末	
	稲水 伸行	東京大学		2024年度末	
	橋本 敬	北陸先端科学技術大学院大学			任期は委員会内の議論によって決定
	藤本 隆宏	早稲田大学			任期は委員会内の議論によって決定
	吉井 哲	名古屋商科大学		2024年度末	
Web・広報委員会	吉井 哲	名古屋商科大学	委員長	2024年度末	理事推薦
	三上 真寛	明治大学		2024年度末	
	江頭 進	小樽商科大学	アドバイザー	2024年度末	
JAFEE通貨運営委員会	宮崎 義久	仙台高等専門学校	委員長	2024年度末	理事推薦
	栗田 健一	千葉経済大学短期大学部		2024年度末	
	小林 重人	札幌市立大学		2024年度末	
	吉田 昌幸	上越教育大学		2024年度末	
大会プログラム委員会	荒川 章義	立教大学	委員長	2026年度末	
	依田 高典	京都大学		2024年度末	
	小川 一仁	関西大学		2026年度末	
	巖 成男	立教大学		2026年度末	
	遠山 弘徳	静岡大学		2024年度末	
	橋本 敬	北陸先端科学技術大学院大学		2024年度末	
	大会実行委員長			各年度末	運営に特化
事務局	原田 裕治	摂南大学		2024年度末	

## 第26回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録（メール審議）

### 議題

#### 1. 学会賞の選定について

生稲選考委員会委員長の報告書により、今年度の学会賞を原田哲史氏の著書『19世紀前半のドイツ経済思想—ドイツ古典派、ロマン主義、フリードリヒ・リスト』（ミネルヴァ書房, 2020年）に基づいて授与することが提案され、これを了承した（審議期間：2021年9月17日（金）～20日（月））。

#### 2. 第2回奨励賞の選定について

生稲選考委員会委員長の報告書により、第2回進化経済学会奨励賞を、李澤建氏の著書『新興国企業の成長戦略—中国自動車産業が語る"持たざる者"の強み』（晃洋書房, 2019年）に基づいて授与することが提案され、これを了承した（審議期間：2021年9月17日（金）～20日（月））。

#### 3. 2020年度会計決算報告について

西会計担当理事より提出された監査済み報告書に基づき、2020年度の会計決算報告を了承した（審議期間：2021年10月6日（水）～9日（土））。

#### 4. オンラインの会員情報管理システムへの会費納入状況管理機能の追加について

原田事務局担当理事より、オンラインの会員情報管理システムに会費納入状況管理機能を追加することが提案され、これを了承した（審議期間：2021年11月7日（日）～10日（水））。

#### 5. 2021年度修正予算について

西会計担当理事より提出された予算案に基づき、2021年度の修正予算を了承した（審議期間：2021年11月7日（日）～10日（水））。

#### 6. 学会内通貨通貨「JAFEE」規約の改定について

原田事務局担当理事より、学会内通貨通貨「JAFEE」規約を改定することが提案され、これを了承した（審議期間：2021年12月17日（金）～20日（月））。

文責：事務局担当理事 原田裕治

会員の皆さま

平素は本学会発展のためにご尽力くださり誠にありがとうございます。

さて上記理事会承認事項に関わって、会員の皆さまにお願いがございます。

議題5「2021年度修正予算」は総会での承認が必要な事項ですが、年度途中での総会開催が困難なため、理事会の承認をもって修正予算を執行させていただいております。

予算修正の内容は、議題4にある「オンラインの会員情報管理システム」導入と京都大会オンライン開催に関わるものです。この会員情報管理システム導入費用および京都大会オンライン開催に関わるサービス利用費用（学会事務局で負担）のために、予備費が75万円増額されています。一方、京都大会がオンライン開催となったため大会費70万円が減額されており、全体として5万円の支出増となっております（詳細は次ページ注記を参照）。

以上の修正案を、事後的にはなりますが、2022年3月の総会でご提案申し上げますのでご承認のほどよろしくお願い申し上げます。

2021年11月3日

**進化経済学会 2021年度予算(修正案)**  
(2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

(単位:円)

収入予算		支出予算	
	予算額		予算額
2020年度からの繰越(見込)	4,911,261	大会費	400,000
		(内訳)	
		オータムコンファレンス	400,000
		本大会	0
		英文誌編集刊行費	2,200,000
会費	2,919,000		
(内訳)			
正会員 (2020年度見込)	2,750,000	通信費	20,000
終身正会員 (同上)	50,000	事務用品費	80,000
院生会員 (同上)	115,000	謝金	20,000
準会員 (同上)	4,000	送金手数料	20,000
賛助会員 (同上)	0		
		事務委託費	650,000
大会収入	200,000		
(内訳)		部会補助費	150,000
オータムコンファレンス	50,000	学会賞	100,000
本大会	150,000	経済学会連合会費	35,000
(2020年度見込)			
書籍売却代(2020年度見込)	0	予備費	850,000
定期購読料(同上)	0	小計	4,525,000
利用料(同上)	6,000		
印税(同上)	28,000	2021年度への繰越	3,539,261
総計	8,064,261	総計	8,064,261

**【注記】****収入側**

1. 会費収入は前年比17,000円増
2. 大会収入は前年度(2020年度)見込みと同額を計上
3. 新項目として、利用料(進化経済学ハンドブック)および印税(シュプリンガー・モノグラフシリーズ)を設置

**支出側**

1. 大会費は前年度(2020年度)予算と同額を計上
2. その他項目は、決算に大きな変化がないため、前年度予算額を計上する
3. 「学会管理システム」(サイエンスウェブ社:見積もり金額税込み726,000円)のために、予備費に700,000円を上積み(2021/11/2)
4. 京都大会本大会のオンライン化に伴い、当初予算の700,000円を全額減額。大会実行委員長承諾済(2021/11/2)
5. 京都大会本大会ポスターセッション、懇親会、控室用のシステム契約費用のために50,000円を上積み(2021/11/3)

2021年9月16日

進化経済学会賞・奨励賞選考報告

進化経済学会賞・奨励賞選考委員会  
生稲史彦（委員長）、岡敏弘、鍋島直樹、西洋

本委員会が学会賞選考にあたって検討の対象にしたのは、*Evolutionary and Institutional Economics Review*に掲載された19点の論文と、自薦・他薦による刊行済み書籍2点の計21点である。

本委員会は、委員会外部の専門家の見解を徴することも含めて、上記対象作品を検討し、本年度の学会賞を原田哲史会員に著書『19世紀前半のドイツ経済思想—ドイツ古典派、ロマン主義、フリードリヒ・リスト』（ミネルヴァ書房, 2020年）に基づいて与え、奨励賞を李澤建会員に著書『新興国企業の成長戦略—中国自動車産業が語る"持たざる者"の強み』（晃洋書房, 2019年）に基づいて与えることが適当であるという結論に達した。

## 2021 年度進化経済学会賞授賞理由

進化経済学会会長 磯谷明德殿

進化経済学会賞・奨励賞選考委員会

本年度の進化経済学会賞の審査が終了し、審査結果が出ましたのでご報告申し上げます。

授賞作品タイトル: 『19 世紀前半のドイツ経済思想—ドイツ古典派、ロマン主義、フリードリヒ・リスト』(ミネルヴァ書房, 2020 年)

著者名: 原田哲史

授賞理由:

原田氏の著書は、19 世紀前半のドイツを対象とする経済思想史の研究書である。ドイツ古典派、ドイツ・ロマン主義、フリードリヒ・リストの三つの系統を取り上げて、当時のドイツにおける思想状況を明らかにしている。

ドイツ古典派とロマン主義については、これまでわが国において研究の蓄積が乏しいが、数多くの文献の丹念な検証によって思想の形成と展開の過程を解明した点に、思想史研究上の意義が認められる。くわえて、日本では紹介されていなかった経済思想を紹介し、その関連性を描いたことで、読者が当時のドイツの経済思想を理解することを可能にしている。研究の対象と手法、その成果において、水準の高い研究書であると言える。

本書を貫く視点は、後発資本主義国ドイツの経済思想家が、イギリス古典派経済学とどう格闘したかということである。本書は 3 つの潮流の格闘の仕方の違いを描いた。ドイツ古典派はイギリス古典派の交換価値の体系に反発して使用価値の経済学を志向した。ロマン主義は共同体の紐帯を保持した中での改革に社会の進化を求めた。リストは、後発段階に特化した政策を主張したが、その段階を脱した暁にはイギリス古典派を受け入れるという体系を作った。この違いを明らかにし、思想の諸潮流の性格を把握できたがゆえに、本書はリストと小林昇のリスト論とを正しく評価しつつ相対化し得たのである。そして、これら後発者の反応の中には、後発なるがゆえに問題の核心を捉え、時代を先取りする要素も含まれていたのもあって、例えば、ウィリアム・カッパ、都留重人、宮本憲一らの一連の貢献にも見られるように、使用価値の概念は、20 世紀後半に、新古典派経済学への反発として再び注目を浴びることになる。このような経済思想の進化をよく描いた本書は、進化経済学の発展に経済思想史の分野で重要な貢献をしたものと言える。

以上の理由で、会長ならびに理事会に、本年度の進化経済学会賞最終候補として推薦する。

2021 年 9 月 16 日

## 2021 年度進化経済学会奨励賞授賞理由

進化経済学会会長 磯谷明德殿

進化経済学会賞・奨励賞選考委員会

本年度の進化経済学会奨励賞の審査が終了し、審査結果が出ましたのでご報告申し上げます。

授賞作品タイトル: 『新興国企業の成長戦略—中国自動車産業が語る"持たざる者"の強み』(晃洋書房, 2019 年)

著者名: 李澤建

### 授賞理由

李澤建氏の著書は、中国自動車産業の変遷を描いた実証研究である。自動車産業の研究と新興国企業の研究に影響を与える著作であり、豊富なデータと独自の分析枠組みと概念構成を用い、興味深い分析結果を示している点も優れている。

当該著作によれば、中国では 1983~2000 年までの移行期に、「三大・三小・二微」体制が作られ、中外合資を中心として乱立が防がれた。2000~2010 年には、民族系企業が「三大」の傘下に入ったり、バスナンバーで乗用車を売ったりする(「準轎車」)企業行動を取り、参入規制をかいくぐって勃興し、廉価車を中心に成長した。だが、2010 年以降になると、廉価車にも三大が参入し、競争状態になった。この競争状態において、民族系企業は依然として上級車では太刀打ちできなかったものの、SUV に活路を見出し、成長した。他社の模倣をしつつも、人材育成や設計開発、サプライヤー網の構築などを通じ、中国の自動車産業の企業が自立していく過程を描いている。

さらに、政府の意図的な政策に対し、「意図せざる効果」としての産業発展がありうるという進化論的なフレームワークが明示的に使われている。したがって、進化経済学会として賞を与えるに相応しい。ただし、対象は中国の自動車産業に限られており、新興国市場とそこで活動する企業全般に対する知見であるとは言い難く、これは今後の研究課題であろう。これらの点を総合的に判断し、奨励賞が相応しいと判断した。

以上の理由で、会長ならびに理事会に、本年度の進化経済学会奨励賞最終候補として推薦する。

2021 年 9 月 16 日

## 進化経済学会内通貨「JAFEE」規約

2021年3月27日

2021年12月20日改訂

### 第1条 学会内通貨発行の目的

進化経済学会の運営は会費による経費支出に加え、会員による各種サービスのボランティアな提供によって成り立っている。そうした無償ボランティア活動に明確な価値評価を行って可視化し、インセンティブを強化することで、活動への参加を促進すること。相互扶助を通じた学会内コミュニケーションを活性化すること。この2つを目的として進化経済学会内通貨を創設する。

### 第2条 学会内通貨の名称及び価値

学会内通貨の名称を「JAFEE」（本学会の英語名 *Japan Association for Evolutionary Economics* の略称）とし、1「JAFEE」を1円相当とする。ただし、学会員は円への換金はできない。

### 第3条 発行・利用、赤字限度額、準備金、監査

1. 学会内通貨「JAFEE」は赤字を許容する口座型地域通貨として発行・利用される。
2. JAFEE 通貨運営委員会、学会員が口座を持ち、各々が有する赤字限度額（発行上限）の範囲内で取引を行うたびに通貨が発行ないし相互相殺される。
3. JAFEE 通貨運営委員会口座の発行上限は 1,000,000JAFEE とする。
4. 進化経済学会は年度末に学会内通貨「JAFEE」の発行・利用に関する年間報告書を作成し、監査を受ける。

### 第4条 学会業務、学会内通貨の発行・利用

進化経済学会の以下の学会業務を行なった会員は所定額の JAFEE を事務局に請求できる。ただし、請求資格通知から1年以内に請求を行わなければ、その請求権を放棄したものとみなす。

1. 学会英文ジャーナル *Evolutionary and Institutional Economics Review* の査読対象論文1編にたいするレフェリーのすべての業務（査読報告の執筆、修正された論文への査読報告の執筆）一回につき 1,000JAFEE。
2. 大会実行委員会に 5,000JAFEE（大会実行委員会の口座へ）。
3. 学会事務局はその他の業務と報酬額を随時決めることができる。

### 第5条 学会通貨の利用

1. 学会内通貨「JAFEE」を利用することができるのは学会員のみとする。

2. 学会員の「JAFEE」口座の赤字限度額は 1,000JAFEE とする。
3. 学会員は、株式会社ジィ・シィ企画が運営・管理する電子通貨ウォレット「C.C.Wallet」によって利用可能となり、「JAFEE」の受け取りや支払いを行う。
4. 学会員は、学会員同士で「JAFEE」を利用して自由に取引を行うことができる。
5. 学会員は、事務局が指定する期間中であれば、1,000JAFEE=1,000 円を単位として口座にチャージすることができる。
6. その他、詳細は細則に定めることとする。

#### 第 6 条 退会時のとりきめ

1. 退会時は原則として会員の口座はゼロにする。
2. 退会時に口座が赤字を保有したままの場合、円で赤字分を支払うこととする。
3. 退会時に口座が黒字を保有したままの場合、黒字分は JAFEE 通貨運営委員会口座に移行することとする。

#### 第 7 条 本規約の改廃

本規約の改廃は理事会で審議決定することとする。

#### 細則

1. 学会員は、自身のスマホに電子通貨ウォレット「C.C.Wallet」をインストールした上でユーザー情報（携帯番号・メールアドレス・パスワード・氏名・ユーザー名）を入力して新規登録を行う。その上で、学会サイトの個人ページより（登録携帯番号）を入力して利用申請を行う。運営委員会の認証手続きにより利用可能になる。
2. 学会内コミケ、古本市での支払い、ポスターセッションでの投げ銭は「JAFEE」のみによるものとし、学会員はこれらの支払いに「JAFEE」を充てることができる。
3. 各自の JAFEE 口座へのチャージは、運営員会の定めるチャージ可能期間に学会サイトの JAFEE チャージ窓口より申請し、PayPal 経由で支払いを行うものとする。
4. 赤字について、上限の範囲内であれば罰則規定等はないものとする。

## 会員異動

### 1. 会勢

2021年9月6日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	342
個人終身正会員	14
院生会員	41
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
400	

### 2. 退会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
久間 清俊	Kuma	Kiyotoshi	熊本県立大学総合管理学部	個人会員
松永 達	Matsunaga	Tatsu	福岡大学商学部貿易学科	個人会員
三輪 仁	Miwa	Hitoshi	九州国際大学現代ビジネス学部	個人会員
阿部 武志	Abe	Takeshi	東京大学ものづくり経営研究センター	個人会員
麻生 憲一	Aso	Kenichi	立教大学観光学部	個人会員
金 佑眞	Kim	WooJin		個人会員
韓 載香	Han	Jaehyang	北海道大学大学院経済学研究科	学生会員
川畑 泰子	Kawahata	Yasuko	立教大学社会学部	個人会員
鈴木 啓史	Suzuki	Hiroshi	大阪大学大学院人間科学研究科	個人会員
大町 慎浩	Omachi	Mitsuhiro	I.A Prep School 平岡 (有)	個人会員
高橋 浩	Takahashi	Hiroshi		個人会員
福永 文美夫	Fukunaga	Fumio	久留米大学商学部	個人会員
原田 勉	Harada	Tsutomu	神戸大学経営学研究科	個人会員
久保 知一	Kubo	Tomokazu	中央大学商学部	個人会員
加藤 木綿美	Kato	Yumi	二松學舎大学 国際政治経済学部	個人会員
深澤 薫平	Fukazawa	Kumpei	神奈川工科大学情報学部	学生会員
清水 耕一	Shimizu	Koichi	岡山大学経済学部	終身正会員
石倉 雅男	Ishikura	Masao	一橋大学経済学部	個人会員

### 3. 新規入会者

会員名	フリガナ	所属一機関名	会員種別	推薦会員
黒澤 悠	Kurosawa Yu	株式会社 クニエ	個人会員	中原 隆 北川 亘太

#### 4. 種別変更

会員名	フリガナ	変更内容	所属一機関名
荒川 清晟	Arakawa Kiyouri	院生→個人会員	東京大学大学院学際情報学府
野寄 修平	Noyori Shuhei	院生→個人会員	東京大学

#### 5. 名簿変更

会員名	変更箇所	所属名
赤池 敬	自宅	
八木 勲	所属先	工学院大学 情報学部 システム数理学科
大東 正虎	所属先	ノートルダム清心女子大学人間生活学部

# 第 26 回進化経済学会オータムコンファレンス（同志社大学）会計報告

2021 年 9 月 11 日会計担当理事

西 洋（阪南大学）

## 1 2020 年度収支計算書決算報告

### 1-1 収入（会費および大会収入）

#### ①正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移（5 年）

2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
3,747,000 円	3,462,000 円	3,552,000 円	3,425,000 円	3,494,000 円

（根拠資料）①2016~2019 年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，②2020 年度は：2020 年度収支計算書決算報告（決算額）の数字

#### ②会費収入会員種別件数

年度	正会員	学生会員	正会員	学生会員	終身会員	その他	合計
	当年度分	当年度分	過年度分	過年度分			
2019	285 件	20 件	24 件	5 件	3 件	6 件	343 件
2020	287 件	24 件	33 件	16 件	1 件	8 件	370 件

（注）その他：前受会費，個人準会員，賛助会員，預り金

（根拠資料）①2019 年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，②2020 年度：2020 入金一覧表(年度・種別) 4.1-3.31 の会費合計（国際文献社）

#### ③第 25 回静岡大会収入

- ・ 1 円（内訳：オータムコンファレンス 0 円，本大会 1 円：これは進化経済学会からの補助 40 万円に対する受取利子）
- ・（参考）第 24 回仙台大会 17 万 9,504 円（内訳：オータムコンファレンス 4 万 5,500 円，本大会 13 万 4,004 円）
- ・（参考）第 23 回名古屋大会 74 万 4,001 円（内訳：オータム 12 万 2,000 円，本大会 62 万 2,001 円）

## 1-2 支出項目と繰越金

支出	参考：予算（2021年度）	決算額（2020年度）	決算額（2019年度）	決算額（2018年度）
大会費	1,100,000	153,480	305,289	1,019,678
オータム・コンファレンス	400,000	38,610	179,917	324,873
本大会	700,000	114,870	125,372	694,805
英文誌編集刊行費	2,200,000	0	4,380,000	2,160,000
通信費	20,000	1,560	1,530	1,530
交通費	0	0	0	0
事務用品費	80,000	33,696	9,428	9,220
謝金	20,000	5,568	16,266	10,800
送金手数料	20,000	6,448	10,286	8,480
会議費	0	0	0	0
印刷費	0	0	0	0
事務委託費	650,000	592,928	582,346	592,779
国際交流費	0	0	0	0
部会補助費	150,000	0	34,730	40,950
経済学会連合会費	35,000	35,000	35,000	35,000
学会賞	100,000	150,000	0	50,000
振替票送付代	0	15,950	0	0
予備費	100,000	84,137	0	0
当期支出合計(a)	4,475,000	1,078,767	5,374,875	3,928,437
繰越金(b)	3,589,261	5,879,212	3,258,862	4,929,216
総計(c=a+b)	8,064,261	6,957,979	8,633,737	8,857,653

（根拠資料）2018~2020 年度：当該年度オータムコンファレンス会計報告および 2020 年度理事会会計報告資料，2021 年度の予算（参考）は 2020 年度理事会にて承認済

（注）

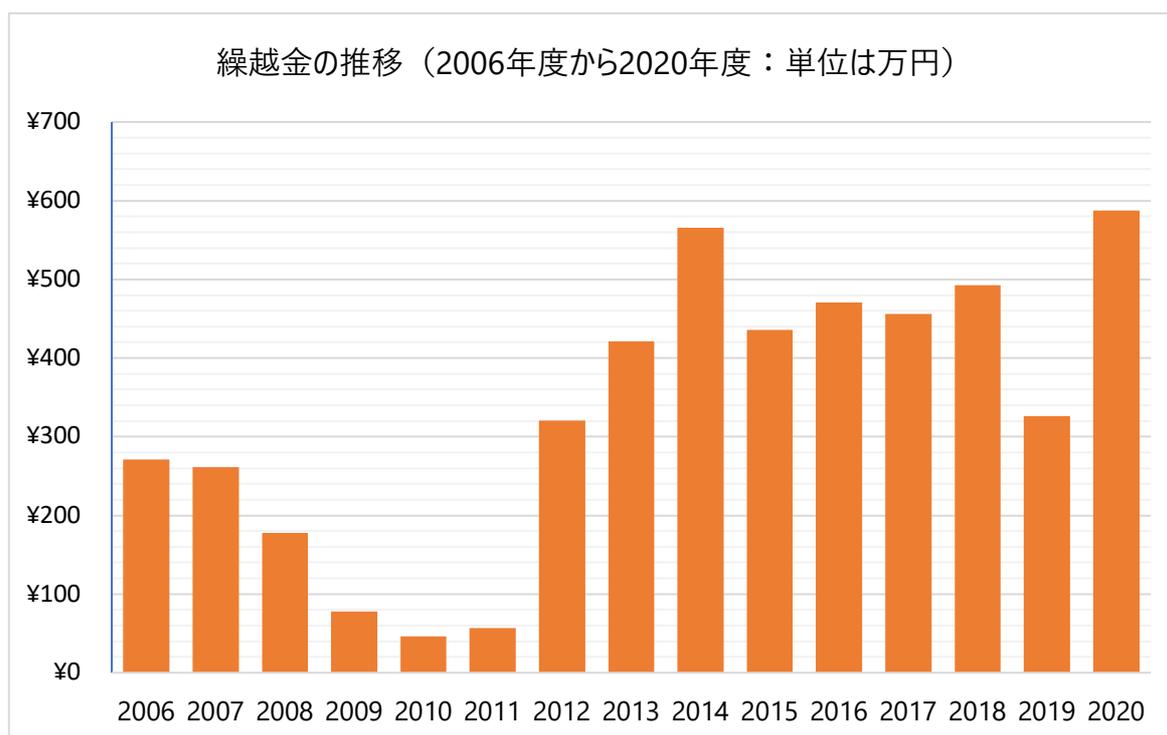
- ・ 英文誌編集刊行費は 200 万円+税等，2019 年度は 2020 年度分を前払い（よって 2020 年度は 0 円）
- ・ 支出の大半は大会費，英文誌編集刊行，事務委託費（平常運転で 400 万円弱）であり，会費収入が 350 万円前後なので，平常運転で大会収入の 50 万円程度がなければ赤字運営となる。しかし感染症問題でここ 2 年ほどはオンライン化になり，大会収入と，とくに大会支出が落ち込んだために意図せざる繰越金 (b) の増大が発生している。

## 1-3 静岡大会（第 25 回大会）収支

	収入（金額）		支出（金額）		差額
オータムカンファレンス	進化経済学会補助	400,000	支出	38610	361,390
本大会	受取利子	1	支出	114870	-114,869
合計		400,001		153,480	246,521

（根拠資料）進化経済学会会計報告（静岡大会）by 遠山先生：差額合計（246,521 円は 2021 年 4 月 23 日に学会口座に返金済）

## 2 繰越金の推移（過去 15 年分）



（根拠資料）昨年度オータムコンファレンス会計報告，2021\_09\_2020 年度収支計算書\_決算案（2020 年度理事会会計報告資料に加筆）。

（注）

- ・ 2020 年度の繰越金は 5,879,212 円であり過去最高を記録。しかし，2009 年から 11 年にかけては繰越金の危機を経験（最低は 2010 年の 460,000 円）。1-2 の支出で考察したように，つうじょうであれば経常的な収支は非常に厳しい。

## 3 モノグラフ・シリーズの印税収入

- ・ 2019 年度分の「シュプリンガー・モノグラフ S.」についてシュプリンガー側の印税振り込み忘れがあったことは，2020 年度の秋の理事会にて前会計理事より報告済。
- ・ シュプリンガー側の印税振り込み忘れ分 170,714 円（2019 年度分）と 28,164 円（2020 年度分）を学会の口座に入金済し，今回の 2020 年度理事会会計報告資料に反映（シュプリンガー・モノグラフ S.分の 198,878 円）した。

- ・ 2020年1月1日から2020年12月31までの収入内訳は次の通り

Title	Electronic	Print	Total
Emerging Risks in a World of Heterogeneity Edition	9.57	9.52	19.09
A New Construction of Ricardian Theory of International Values Edition	14.02	8.49	22.51
J.M. Keynes Versus F.H. Knight	52.95	39.28	92.23
Contemporary Meanings of John R. Commons's Institutional Economics	1.5	1.27	2.77
The Evolving Relationship between Economy and Environment	3.43	2.89	6.32
Economic Foundations for Social Complexity Science	19.37	-6.78	12.59
Contemporary Capitalism and Civil Society Edition	29.02	18	47.02
The new Japanese Firm as a Hybrid Organization	2.88	2.43	5.31
Evolutionary Games with Sociophysics	36.73	10.69	47.42
Complexity, Heterogeneity, and the Methods of Statistical Physics in Economics	91.9	49.09	140.99
Interacting Complexities of Herds and Social Organizations	24.04	16.84	40.88
Total	261.37	134.88	437.14
Withholding Tax Calculated on 437.14 10%			-43.71
Payment Due SGD			SDG 393.43
Amount to be Transferred to your bank (rate 77.942322681)			JPY 30,664.00

(根拠資料) Springer; Royalty Statement - Summary Annual Statement Period: January 01, 2020 - December 31, 2020

(注)

- ・ 30,664円からシンガポールから日本への送金手数料2,500円(学会負担)が引かれ、残金28,164円(前記)が2020年度分の印税収入になる。

#### 4 2020年度 収支計算書決算報告(参考資料)

毎年秋の理事会にて、監査済の前年度の収支計算書決算報告を行っています。しかしながら、今年度については、担当会計理事の力不足によって、従来のような監査書類を作成し、理事会までに監査いただく手筈を整えることができませんでした。誠に申し訳ございません。

そこで、収支決済報告については参考までに提示するにとどめ、会計の監査業務と審議・報告については、監査書類の完成をもって監査理事に郵送し、監査いただくことにします。そして、監査の結果をメールでの理事会審議にかける、あるいは時期によっては2022年春の理事会審議にかける、という形で進めてまいります。

**進化経済学会**  
2020年度 収支計算書決算報告  
(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費	2,902,000	3,494,000	592,000	大会費	1,100,000	153,480	-946,520
				オータム・コンファレンス	400,000	38,610	-361,390
	2,760,000	2,870,000		本大会	700,000	114,870	-585,130
正会員当該年度		330,000		英文誌編集刊行費	0	0	0
正会員過年度分				通信費	20,000	1,560	-18,440
終身正会員当該年度	50,000	50,000		交通費	0	0	0
院生会員当該年度	90,000	120,000		事務用品費	80,000	33,696	-46,304
院生会員過年度分		80,000		謝金	20,000	5,568	-14,432
準会員	2,000	4,000		送金手数料	20,000	6,448	-13,552
賛助会員当該年度	0	0		会議費	0	0	0
その他(前受会費)		40,000		印刷費	0	0	0
大会収入	700,000	1	-699,999	事務委託費	650,000	592,928	-57,072
オータム・コンファレンス	100,000	0	-100,000	国際交流費	0	0	0
本大会	600,000	0	-600,000	部会補助費	150,000	0	-150,000
CD販売・受取利子	0	1	1	経済学会連合会費	35,000	35,000	0
利息	0	10	10	学会賞	100,000	150,000	50,000
寄付金	0	0	0	振替票送付代	0	15,950	15,950
書籍売却代	0	0	0	利用料	『進化経済学ハンドブック』	0	6,228
定期購読料	0	0	0	印税収入	シュプリンガー・モノグラフ S.	0	198878
印刷費	0	0	0	予備費	100,000	84,137	-15,863
当期収入合計	3,602,000	3,699,117	97,117	当期支出合計	2,275,000	1,078,767	-1,196,233
前期繰越金	3,258,862	3,258,862	0	繰越金	4,585,862	5,879,212	1,293,350
総計	6,860,862	6,957,979	97,117	総計	6,860,862	6,957,979	97,117

**【注記】**

(1) 本報告書は以下の3点から構成される。

①2020年度 収支計算書決算報告 (2020年4月1日～2021年3月31日)

②貸借対照表 (2021年3月31日)

③財産目録 (2021年3月31日)

(2) 収支計算書について、「英文誌刊行費」はEIERの発行時期の変更により、本年度(2020年度)予算から支出する予定のVol.17のNo.1, No.2の2号発行分の費用220万円が、前年度(2019年度)予算から執行された。そのため2020年度予算段階で0計上とし、執行額も0円となっている。

(3) 2020年度は理事の改選にあたり、選挙費用として予備費に10万円計上している。執行額は84,137円となった。

(4) 学会年会費の郵便為替による振り込みに新しく「振替受払通知票等郵送通知料金」(ゆうちょ銀行。国際文献社報告書類では「振替票送付代」)が、会員の入金1件につき110円発生している。2020年4月1日～2021年3月31日において入金件数は145件であり、したがって145件×110円/件=15,950円の支出が計上されている。

2021/3/23 (作成)  
2021/9/11 (更新)

**貸借対照表**  
(2021年3月31日)

(単位：円)

借方		貸方	
I 流動資産		II 流動負債	
現金		前受会費	110,000
預金			
普通預金	794,053		
郵便振替	4,948,638		
未収金	246,521	III 正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	3,258,862
		当期差益	2,620,350
合計	5,989,212	合計	5,989,212

**財産目録**  
(2021年3月31日)

(資産の部) (単位：円)

科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(千里中央)	794,053
	学会事務局(国際文献)	郵便振替口座	4,948,638
未収金	第25回大会残金		246,521
資産合計			5,989,212

(負債および正味財産の部) (単位：円)

科目	適用	金額
流動負債		
前受会費		110,000
負債合計		110,000
正味財産合計		
	前期繰越金	3,258,862
	当期収支差額	2,620,350
負債及び正味財産合計		5,989,212

進化経済学会

2020年度 収支計算書決算報告  
(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費	2,902,000	3,494,000	592,000	大会費	1,100,000	153,480	-946,520
	2,760,000	2,870,000		オータム・コンファレンス	400,000	38,610	-361,390
		330,000		本大会	700,000	114,870	-585,130
		50,000	50,000	英文誌編集刊行費	0	0	0
	50,000	120,000	70,000	通信費	20,000	1,560	-18,440
	90,000	80,000	-10,000	交通費	0	0	0
		4,000	4,000	事務用品費	80,000	33,696	-46,304
	2,000	0	-2,000	謝金	20,000	5,568	-14,432
	0	40,000	40,000	送金手数料	20,000	6,448	-13,552
		1	-699,999	会議費	0	0	0
大会収入	700,000	0	-700,000	印刷費	0	0	0
	100,000	0	-100,000	事務委託費	650,000	592,928	-57,072
	600,000	0	-600,000	国際交流費	0	0	0
	0	1	1	都会補助費	150,000	0	-150,000
	0	10	10	経済学会連合会費	35,000	35,000	0
利息	0	0	0	学会賞	100,000	150,000	50,000
寄付金	0	0	0	振替票送付代	0	15,950	15,950
書籍売却代	0	0	0	予備費	100,000	84,137	-15,863
定期購読料	0	0	0	当期支出合計	2,275,000	1,078,767	-1,196,233
利用料	0	6,228	6,228	繰越金	4,585,862	5,879,212	1,293,350
印税収入	0	198878	198878	総計	6,860,862	6,957,979	97,117
当期収入合計	3,602,000	3,699,117	97,117				
前期繰越金	3,258,862	3,258,862	0				
総計	6,860,862	6,957,979	97,117				

上記の通り相違が無いことを確認いたしました

2021年 9月 28日

黒瀬 一弘

進化経済学会監査委員

上記の通り相違が無いことを確認いたしました

2021年 10月 4日

藤田 菜々子

進化経済学会監査委員

貸借対照表  
(2021年3月31日)

(単位:円)

借方	貸方
I. 流動資産	II. 流動負債
現金	前受会費
預金	
普通預金	794,053
郵便振替	4,948,638
未収金	246,521
	III. 正味財産
	次期繰越金
	前期繰越金
	当期差益
合計	5,989,212
	合計
	5,989,212

財産目録  
(2021年3月31日)

科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(千里中央)	794,053
	学会事務局(国際文献)	郵便振替口座	4,948,638
未収金	第25回大会残金		246,521
資産合計			5,989,212

(負債および正味財産の部)

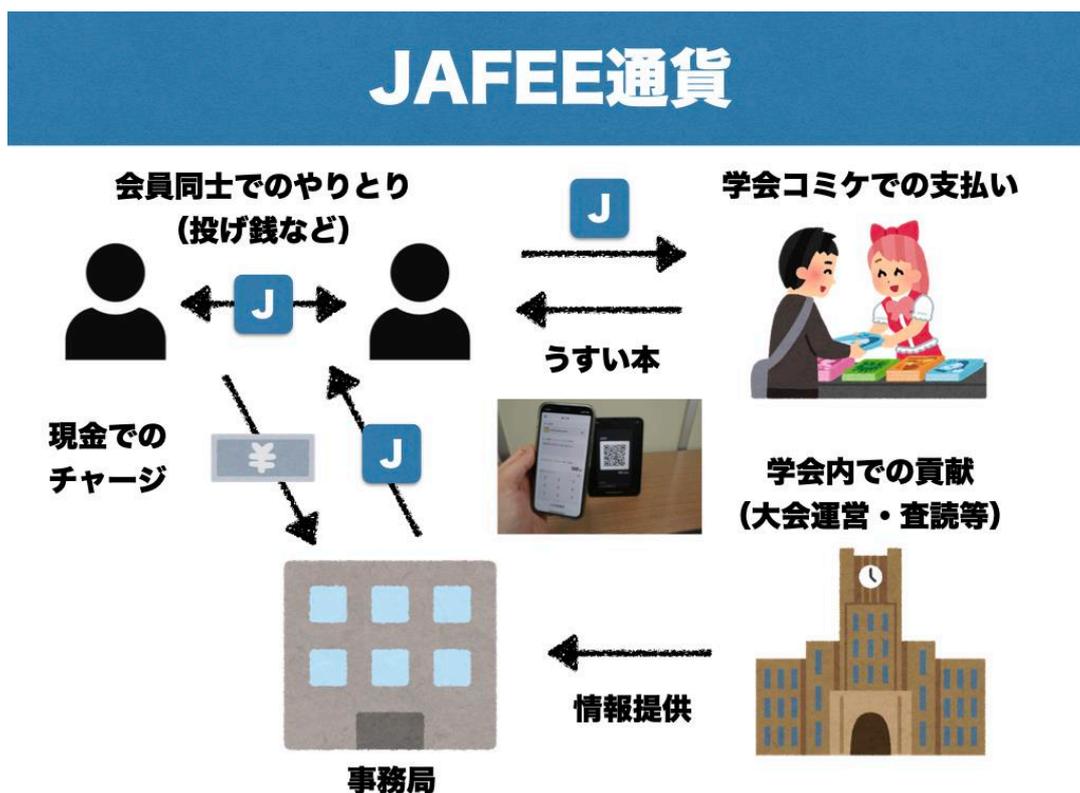
(単位:円)

科目	適用	金額
流動負債		
前受会費		110,000
負債合計		110,000
正味財産合計		
	前期繰越金	3,258,862
	当期収支差額	2,620,350
負債及び正味財産合計		5,989,212

## 進化経済学会内通貨「JAFEE」の利用と学会コミケ出品に関するお願い

宮崎義久（JAFEE 通貨運営委員会）

進化経済学会会員の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。本年度より JAFEE 通貨の発行が先日の理事会で承認されました。そこで、2022 年 3 月 26 日から 27 日にかけて同志社大学（オンライン）で開催される全国大会から学会内での活性化を目的として本格的な運用を始めます。



利用のたまかな流れは以下の通りです。

1. C.C.Wallet のアプリをダウンロードする
2. アプリの利用登録をする
3. 学会の個人会員ページ上で、登録した携帯電話の番号を入力する
4. 管理者が認証を行う（認証済みか否か個人会員ページから確認可）
5. アプリを使った取引が可能となる

つきましては、下記の 2 点についてお願いがございます。

### (1) C.C.Wallet の登録について

お手持ちのスマートフォンからアプリ（C.C.Wallet）をダウンロード（DL）してください。  
DL は下記の QR コードから（App Store または Google Play から直接検索も可）でも可能です。

【Google Play】



【App Store】



アプリの登録について、詳細は[こちらのリンク先 \(https://youtu.be/JcoxuBc0VX4\)](https://youtu.be/JcoxuBc0VX4) からご確認ください。

また、JAFEE を利用するには、アプリの利用登録および管理者の承認が必要になります。登録後、学会ホームページ上の個人会員ページから、アプリの利用登録に使用した携帯電話番号を入力ください。こちらで承認を行います。お手数おかけしますが、よろしくお願いいたします。

#### (2) 学会コミケへの出品について

3月の大会では、会員間の交流を活発化させることを狙いとして、学会コミケを開催します。COVID-19の影響により、遠隔授業を実施している先生方も多いことと存じます。その際に作成された講義資料やノート類を1冊の小冊子にまとめて、JAFEE を用いて交換するイベントです。もちろん、その他の冊子などでも構いません（ただし、著作権にはくれぐれもご配慮ください）。

詳細は後日追ってメーリングリスト（ML）にてご連絡いたしますが、まずは大会までに作品をご準備いただき、出品にご協力ください。次ページに掲載した吉田雅明会員による冊子の見本と学会コミケの呼びかけ文もぜひご一読ください。

JAFEE 通貨について、今後も学会ホームページや ML を通じて、随時情報を掲載していく予定です。みなさまの活発な参加と利用を心よりお待ちしております。

## JAFEE 通貨で学会コミケをしよう！

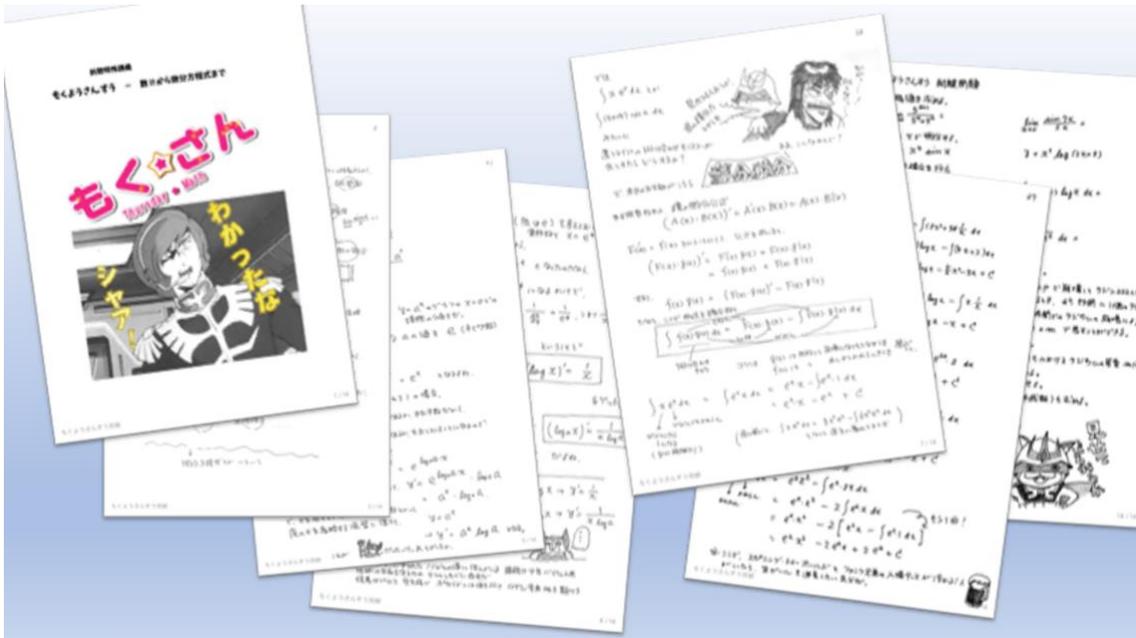
吉田雅明

コロナ禍で多くの方がオンライン授業を余儀なくされ、いまでも続けられていることと思います。オンラインになりますと、これまで教室で黒板に書いて説明していたこと、要所となる資料だけを配って口頭で説明すれば十分だったのがそうはいかなくなりました。ちゃんと連続するように資料を集め、板書ですんでいた式や図を思うように描けないソフトに毒づきながらなんとか作成し、慣れない操作に心折れそうになりながら動画にまとめて・・・と、たぶん従来のは3倍くらいは労力をかけて授業に臨んできたのではないかと思います。しかし皆様、その副産物として、教科書とまではいかないまでもそれなりにまとまった教材がお手もとにできているのではないのでしょうか。

授業ですから、本来の専門ではないものも教えなければいけません。10数回分のまとめりとして学生さんたちに伝えようと頭をひねり、ときには「しらんがなー」とつぶやきながら知識の穴を塞ごうと苦闘した痕の残る教材になっているかもしれません。専門の方が書かれた教科書にはかなうべくもないのですけど、そういうのはオモテの世界で出せばよいのであって、むしろ手探りの記録というところがここでは貴重です。それを「うすい本」にして見てもらおうというのが学会コミケです。

そんな人には見せられないよー、と思われるかもしれません。まあいつもならせいぜい親しい友人と、こんなのやってんだけどねーといって見せ合うくらいでしょう。そこをなんとか心のハードルを下げて、コミケというお祭りのノリで、進化経済学会に集う仲間にも見せていただけないのでしょうか。これは学会報告というオフィシャルなコミュニケーションでは得られないコミュニケーションのチャンネルを開き、新たな交流をこの学会に生み出してくれるでしょう。その対価として直接的に得られるものは学会通貨 JAFEE (1冊 500JAFEE を想定しています) ですが、この JAFEE 通貨は、進化経済学会というコミュニティから、広く手を差し伸べてくれたあなたへの感謝を表すものとお考えください。そして、その JAFEE 通貨を使って、学会の仲間の「うすい本」を手に入れてください。JAFEE 通貨は、ポスターセッションで面白いプレゼンを見たときの「投げ銭」にも使えます。将来、対面での大会開催が可能になったときには古本市の支払にも使えるようにしたいなと夢を膨らませております。

なお、通常「うすい本」といいますのは、コミケで制作・販売されている同人誌のことで、二次創作で往々にしてアレな要素多めのものですが、そこはもちろん学会としての品位を保ちつつも、チャレ成分増量での冊子体を目指していただければと存じます。たとえば、私が担当しております数IIまでしかやっていない学生さんたちに当面必要な微積を教える半期授業の教材ですと次の図のようなかんじです。pdf原稿をコミケの印刷／製本業者に出し、表紙のみカラーA4版で作れば、60ページなら50部で3万円弱、100部で4万円ほどでできます(業者や条件で変わります)。1冊の郵送料は百数十円になります。ご負担にはなりますが、授業で使えるものでもありますので、そこをどうか伊達と酔狂で、進化経済学会の活性化、進化経済学の興隆のためとさせていただいてご賛同いただけますようお願いいたします。



進化経済学会がスタートしたのは1996年。従来の経済学に飽き足りない人たちが全く新しい基本設計をもつ経済学を求めて、また、自分たちの手でつくろうという意欲をもってこの学会に集まってきました。当時は複雑系ブームの熱気もあり、ジャンルを超えて実に活発な議論が行われました。そこから20数年が経ち、わたしたちはややもすれば「専門」に落ち着きがちになり、コミュニケーションも縮こまりがちです。いまいちど、オンライン時代の副産物とJAFEE通貨という新たなツールを手に、垣根なく、気軽で、そして熱く語り合える回路を再生しようではありませんか。

進化経済学会をわたしたちの手でもっと楽しい場所にしましょう！

(1/18 追記)

上で学会コミケ出品のお願いをいたしました。そこでご出品グッズの例としまして、通常のコミケで販売されています「うすい本」のように業者製本された授業資料を挙げておりますが、もちろんそのような形のものに限定されることはありません。ご自身でプリンタ出力して綴じたもの、さらにpdfファイルのままでもかまいません。一応コミケの気分を盛り上げるため、なにか適切な表紙ページをつけていただければOKです。内容も講義資料に限らず、科研費申請指南、留学ガイドなどなど、学会の若いメンバーに役立つようなものをご提供いただけましたら有難いです。想定されるJAFEE価格は、業者製本したものは500JAFEE、プリンタ出力で簡単に綴じたものは400JAFEE、pdfファイルですと送料負担が発生しませんので200JAFEEを目安にいただければと存じます。具体的な手順などにつきましてはこの後MLや学会webサイトでお知らせしてまいります。

進化経済学会がさらに楽しい場となりますよう、みなさまのご協力を心よりお願い申し上げます。

----

## **Symposium on Yoshinori Shiozawa, Masashi Morioka and Kazuhisa Taniguchi (2019), *Microfoundations of evolutionary economics*, Tokyo: Springer Japan**

Tony Aspromourgos, Kenji Mori, Masashi Morioka, Arrigo Opocher, J. Barkley Rosser Jr., Yoshinori Shiozawa, Kazuhisa Taniguchi, Heinz D. Kurz, Neri Salvadori

----

塩沢由典・森岡真史・谷口和久による *Microfoundations of Evolutionary Economics* が出版されてほぼ2年が経ちました。出版直後に本学会の「ニューズレター(47号)」にて、「5分でわかる『進化経済学のマクロ的基礎』」として、その紹介記事を掲載させていただきましたが、今回は本書をめぐっての誌上シンポジウムの紹介です。

シンポジウムは、*Metroeconomica* (First published: 13 October 2021 <https://doi.org/10.1111/meca.12345>)の誌上で行われており、全体で47ページにわたる内容です。シンポジウムは、*Metroeconomica* の編集長の Heinz D. Kurz と Neri Salvadori の連名による Editorialから始まります。それはわずか2ページ足らずの短いものですが、本書が経済学上の決定的に重要な問題点を捉えていることを紹介しています。それに続いて、Tony Aspromourgos, Kenji Mori, Arrigo Opocher, J. Barkley Rosser Jr. の4名による論評があり、最後にYoshinori Shiozawa, Masahi Morioka, Kazuhisa Taniguchiの連名による応答があります。

本書はタイトルの示す通り進化経済学のマクロ的基礎を詳述したのですが、四つの論評は評者のそれぞれの専門の立場からのものです。したがって、その論評は経済思想史、ケインズ経済学、進化経済学、数理経済学、日本経済など幅広い範囲に及んでいます。それらの論評に対する応答は制限された紙面の都合により全てを網羅はしていませんが、本書の唱える「マクロ的基礎」理論から、どのような経済像が見えるのか、あるいは、どのような経済学を志向しているのか、その方法論も含めた核心的なものとなっています。同時にこの応答は、四つの論評への応答にとどまらず、Kurz と SalvadoriのEditorialにおける問題意識を、具体的により深く述べたものとなっています。進化経済学の理論的基礎はどこにあるのか、経済現象の基礎をどのように考えるのかなど、今後の経済学の発展を考える上でも、最新の必読文献のひとつになっていると思います。ぜひご一読いただければと存じます。

なお、論者のTony Aspromourgos (豪, シドニー大学)は経済思想史, 貨幣経済学, マクロ経済学など。Kenji Mori (東北大学)は, 経済学説・思想史, 理論経済学など。Arrigo Opocher (伊, パドヴァ大学)はスラッフア経済学, 消費者経済学, 計量経済学など。J. Barkley Rosser Jr.(米, ジェイムス・マディソン大学)は, 数理経済学(非線形経済動学・複雑系), 環境経済学, 比較経済体制論などを専門にしています。(以上)

## 編集後記

会員の皆さま、明けましておめでとうございます。

進化経済学会ニュースレター第51号をお届けいたします。学会活動もオンラインを活用して、これまでとは違ったかたちで活発になってきました。しかし、パソコンの画面を通して報告したり議論することに味気なさを感じるのも確かです。今、改めて、学会や研究会で感じる事ができたあの雰囲気のを再認識しています。

今年も学会員のみなさまにとって良き一年となりますように願っております。

ニュースレター編集担当：横田宏樹（静岡大学）